

# 女性のひろば

おかやま女性情報誌 第10号  
1996. 3.



- 座談会「わたしの国の女性たち」
- 男女共同参画社会を表現したイラスト優秀作品掲載

## 女性の社会進出

**司会** 女性が働くことについて、あなたの国の状況をお聞かせください。

**班璋** 中国、韓国はともに儒教の国ですから、男尊女卑、良妻賢母の考えが昔からありました。しかし1949年に社会主義中国が成立してから、女性の社会進出や女性の就職が進み、共働きがあたりまえです。電車やダンプカーの運転手、郵便屋さんも女性が珍しくありません。待遇とか賃金も男女平等です。

**李貞沃** 韓国では昔から女性は家庭を守る人、男性は外で働く人という観念があります。しかしこのごろでは韓国でも女性が多く働いているようです。でも主婦はあまりアルバイトはしません。

**ヌルハヤティ** ずっと昔、独立前はインドネシアでは女性の地位は低かったです。だから平等になるように戦いました。今は法律的にはレベルが同じで市長、大臣、社長、教授などいろいろな職業に女性がついています。日本に来て女性の教授が少ないのに驚きました。キャリアが同じなら、女性と男性は同じチャンスです。

**マリース・グレゴア** 日本ではなんでもはっきり決まっています。赤は女の子、黒は男の子。教室もこっちは男の子、こっちは女の子。男女の役割分担についてもそうで、家事は女性の仕事、外で働くのは男性の仕事です。でもアメリカではそれがはっきり決まっていないと思います。

例えばアメリカでは、転職も自由だし、女性も何年か勤めて子どもができたなら辞めてもいいし、休んでまた続けることもできます。でも日本では辞めたらキャリアを生かした復職は難しいのではないですか。

## 家庭での家事

**李貞沃** 韓国と日本はよく似ています。教育にすごく熱心です。だから家庭でのお母さんの役割はとても大切です。夫は妻を外で働かせたくないの、妻は夫の仕事を手伝うくらいで、専業主婦が多いので嫁、娘が面倒を見ます。

主婦が多いです。

**ヌルハヤティ** インドネシアでは女性が働く家庭にはメイドがいるところが多く、私の場合は妊娠中に母がメイドをつれてきてくれました。でも子どものことは自分でしたいと思っています。国での私の仕事は大学の講師なので、授業の準備とか打ち合わせなど家でできることも多いです。こういう仕事は女性にとっていいと思います。

大都市には保育園もありますけど少なく、メイドには賃金が要るので、家族や近所の人に子どもを見てもらう人もいます。

**マリース・グレゴア** アメリカでは妻が忙しいときには夫が家事をし、妻が早く帰れば妻がしています。家事は女性だけの仕事という考えはありません。日本では妻が忙しいとき、夫は実家で食事したり外食したりしています。なんで自分で料理しないかすごく不思議です。できるできないの問題ではなく、するかしないかの問題だと思います。アメリカでは働いている女性が多く、家事も女性の方が負担が大きいです。日本のように妻が家事をして夫がテレビを見ているという状況は少ないと思います。

**班璋** 中国では料理は男性がよくします。お客が来たときには妻が客と話し、夫が料理を作ります。農村部にはまだ亭主関白が残っていますが、都市部のサラリーマン家庭では先に帰った者が家事をするという状況です。二世帯同居が多く、若い人は働きに出て祖母が家事をするケースも多いです。

## 介護の問題

**司会** 二世帯同居の話が出ましたが、親が倒れたとき、娘や嫁など同居の働く女性は仕事をどうするのでしょうか。

**李貞沃** 韓国も二世帯同居は多いです。長男が全部親の面倒を見ます。専業主婦が多いので嫁、娘が面倒を見ます。

**ヌルハヤティ** インドネシアでも高齢者は家族の中の女性が面倒を見ることが多いです。ただ親が子どもの中の誰と同居するということは決まってい

## —国際交流座談会—

人口61万人の岡山市に、6,250人の外国人の方がお住まいです。これは20年前の約2倍です。国際化が進む中の国の女性の暮しや働き方などを話

合っていました。これは20年前の約2倍です。国際化が進む中の国の女性の暮しや働き方などを話

# わたしの国の女性たち



- 1.班璋さん  
2.中国  
3.36才  
4.大学講師  
5.妻・子ども2人  
6.8年

- 1.マリース・グレゴアさん  
2.アメリカ  
3.25才  
4.岡山市国際交流員  
5.夫  
6.4年

- 1.李貞沃さん  
2.韓国  
3.53才  
4.主婦  
5.夫・子ども6人  
6.20年

- 1.ヌルハヤティさん  
2.インドネシア  
3.33才  
4.留学生  
5.夫・子ども1人  
6.一昨年10月に2度目の来日

自己紹介 1.氏名 2.国籍 3.年齢 4.職業 5.家族 6.日本在住年数

いないので、誰か仕事に出ていない女性が面倒を見ます。親を老人ホームなどに行かすのははずかしいとされ、子どもの誰かが両親と暮らすのがいいと思われています。

**マリース・グレゴア** アメリカでは子どもはもちろん面倒を見ますが、一緒には暮しません。老人ホームとか病院、老人のコンドミニウムに入ります。私の祖母は85才ですが、フロリダで老人のコンドミニウムに一人で住んでいます。彼女は一人暮らしが一番いいと感じていて、結婚前と同じ状態、つまり独立して一人である状態を自分ですごく

楽しんでいます。だから祖母は希望通りの暮らしをしていて、私たちは祖母を大事にしているわけです。

**班璋** 中国には老人介護の行政サービスというものはまだないので、子どもが頼りです。親と暮らすことは親孝行というだけでなく、中国の都会では住宅難ですから経済的な理由でもありますが、中国では夫婦共働きがほとんどなので、寝たきりの老人の世話は夫婦二人でやるしかありません。どうしても手が回らない場合は、家政婦を雇う家庭もありますが、どんな理由があっても妻が仕事をやめることは考えられ

ません。

## 女性問題について

**班璋** 昨年9月の北京女性会議でも取り上げられましたが、中国では教育問題が非常に深刻です。義務教育制度はありますが農村部では経済的な理由から学校に行けない子どもが多く、その大半が女の子です。文盲率は約20%ですがほとんどが女性です。

それから婚姻の問題です。中国沿岸部では経済発展が著しく、農村地帯から多くの女性たちが労働者として働きに出ています。彼女たちはできれば農村の男性とは結婚したくないのに、だまされて人身売買のように農村の男性と無理やり結婚させられることがあります。これも大きな社会問題です。

3番目の問題はひとりっ子政策からくるものですが、一人しか子どもが作れないから皆なるべく男の子を欲しがると、間引きといった悲劇も生じることがあります。中国の女性差別はまだまだ深刻です。

**マリース・グレゴア** ガラスの天井とよく言われますが、女性が入社して一生懸命働いても、ある程度までしか昇進できないという問題があります。会社のトップクラスの人には男性で、女性はそこに入っていけない。だんだん変わってきているとは思いますが、アメリカでも女性差別がないとは言えません。

次に日本における女性問題についてですが、日本ではお茶を大変大事にしますね。会議のとき出席者が一人遅れてきました。私が気付かないでいると、男の人が来て、『マリース、お茶』って。わざわざ言いに来るなら自分で持っていくなさいって思いますけど、やっぱり言えないです。

**ヌルハヤティ** インドネシアでは、就職に関しての女性差別はないと思います。

私が今通っている日本の大学の研究室では、来客のとき、女子学生だけがお茶くみや洗い物をしています。また

出張には、研究に関係のある女性がいっても男子学生を連れて行きます。

## 岡山の女性たちへのアドバイス

**李貞沃** 昔は女は顔を出さない、外に出ない、男性よりも一歩下って歩くなど、そういうことがありました。今は少なくなりましたが、まだ残っています。そういうことをなくそうと、この情報誌も作られているんだろうと思います。だから私もこの座談会に出席することにしました。皆さんに頑張ってもらいたいです。

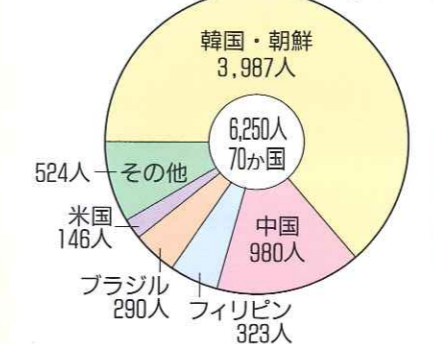
**ヌルハヤティ** 日本の女性は男性より強くなりたいと思わないで、パートナーとして、それぞれの長所を生かして活用していった方がいいと思います。

**班璋** 留学生の世話をしたり、留学生を家に呼んで日本語を教えたりとか、ボランティア活動など、日本の女性たちは最近なかなか活躍しています。今後もそうした女性のパワーを期待しています。男性は会社に勤めているから、外国の人と交流する時間はあまりないですね。主婦たちが活躍していますね。これからも異文化と交流することが大切だと思います。

**マリース・グレゴア** 世界で最初に女性が選挙権を得たのはニュージーランドです。それから欧米の各国の女性たちが協力して参政権を勝ち取りました。失礼に聞こえるかもしれませんが、日本では女性の選挙権は戦争が終わって、憲法によって与えられたものです。女性たちが頑張って協力し合って、主張して得たものじゃないわけです。欧米では頑張った歴史があります。日本の女性はこれから意識を高め、このような座談会などの機会を増やして、頑張って活動して欲しいと思います。まずは女性同士で結束することだと思います。

**司会** 21世紀に向けて、国際的視野に立って、女性問題を考えていきたいですね。今日はどうもありがとうございます。

## 岡山市の外国人国別人数 (H7.12月)



## 友好交流サロン

市民と外国の方が気軽にふれあいができることを目的として、岡山市友好交流サロンがあります。ここでは日本文化紹介や講演会、情報誌の発行等、各種事業を実施しています。

場所/岡山市幸町10-16  
西川アイプラザ 4F  
電話/234-5882



# 男女共同参画社会を表現した

## イラスト

家庭・地域・職場で、男女がお互いに支え合い理解し合いながら、それぞれの個性や、能力を生かすことのできる男女共同参画社会——のあり方を市民の皆さんにイラストで描いていただきました。74歳から14歳まで22人、応募総数31点。一般の部と中学・高校の部の最優秀と優秀作品をご紹介します。

### 〈一般の部〉



最優秀賞 高山美幸さん(40才)



今まで子育ては女という定番を夫婦で協力して子育てができるように乳児健診を取り上げてみました。共同参画はまず家庭からという願いです。

お母さんと一緒に家事をしながら子どもたちに「ガンバッテ」とエールを送られるお父さんの姿を描いてみました。



優秀賞 池田順子さん(28才)



「お茶くみ」というが、いちばん大変なのは、お茶碗洗いである！と私は思う。「各自飲みたいときに自分でお茶をいれて飲んで、すんだら自分であとを片付けるか」とにかくみんなお茶当番するのどちらかになってもらいたいのであった。心から、ほんとに。



優秀賞 阿部ゆかりさん(25才)



優秀賞 神野恵美さん(中3)



この絵は会社帰りの夫が妻の代わりに買物をしています。これからの家庭生活は、役割分担ではなく、お互いに行えることは、できる方がやる、という形にしていきたいと思います。

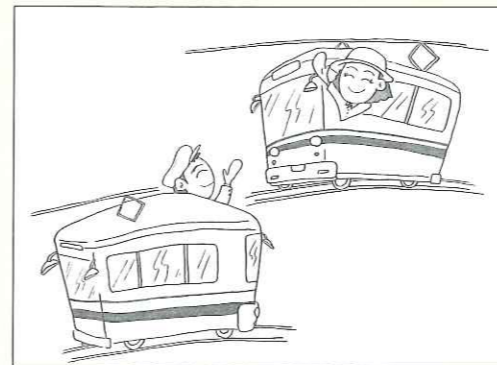
### 〈中学・高校の部〉



最優秀賞 釜井智行さん(中3)



男性が働いて、女性が家事をするという考えに捉われず、男性も家事をし、女性も外で働く社会もいいと思った。



優秀賞 高山裕美子さん(高2)



私がいつも乗っている市内電車の車掌さんにも女の人があります。今まで男の人ばかりだったのががんばっているなあと思いました。

## フレッシュ女性消防士

平成7年4月、岡山市で初の女性消防士が誕生。消防学校での半年の研修を経て現在の配属は市庁舎7階の消防局予防課予防広報係。  
渡邊仁美さん(22歳)と中田恵以子さん(21歳)のフレッシュなお二人にインタビューしました。



中田さん 渡邊さん

### ★応募の動機と現在の仕事について

**中田：**体を動かすことが好きなので、一般的な事務の仕事より体を使った仕事をしたかったのと、消防の仕事が自分がどれだけやれるか、試してみたいと思いました。

**渡邊：**女性消防士の仕事に関心があり受験したのですが、面接の際の話の中で仕事の厳しさを感じ、やりがいがあると思いました。二人とも、現在は、広報紙や予防運動の資料作りなど事務的な仕事をしています。

### ★男性ばかりの職場でどんな様子ですか

**渡邊：**研修の時、体がついていけるかどうか不安だったのですが、同期の人たちが励ましてくれて、なんとかやってこられました。その時相談できる女性の教官がいてくれたらと思いました。また職場に同世代の人がいないのが寂しいです。

**中田：**研修でハードな訓練の時、私が頑張ると、負けるのかと男性もさらに頑張っていたことを思い出すと、これからも頑張っていこうという気持ちが湧きます。また、消防学校の教官は私たちに気を使われたようですが、同期生は男性、女性というのではなく同じ仲間という意識のようです。

### ★女性消防士としてできる事や意気込みは

**渡邊：**女性の視点を盛り込みたいと意気込んでいますが、今までのやり方やスタイルなど長い間に練り上げてきたものがあるので、とまどいもたくさんあります。また、救急車に女性隊員が乗っていたら、若い女性にとっては安心だと思いますし、広報活動で幼稚園や老人ホームに行くときは、女性だと和らいだ雰囲気になるんじゃないかなと思います。

**中田：**女性消防士第1号ということでいろいろ取材されてきて、改めて皆さんの期待と責任を感じました。今後女性消防士が自分の後に続くと思うと、先輩として何事にも自信が持てるようになりたいと思います。

### ★女性消防士としてどんな仕事をしていきたいですか

**渡邊：**性格上、救急より予防の方が向いていると思うので、施設での防火教室や消火器設置の点検などの予防広報活動をしていきたいと思っています。

**中田：**他都市の女性消防士は救急や通信などの仕事もしているという事ですが、私もそういった市民に身近な現場活動をしたいと思っています。日本の法律では女性は消火活動はできないのですが、アメリカのように消火活動もしたいですね。

女性消防士のパイオニアとして意欲いっぱいのお二人でした。

## ひとりで悩むより一緒に考えてみませんか



- 長い間夫の浮気や暴力に耐えてきたがもう我慢できない
- 職場の人間関係に悩んでいる
- 性暴力を受けたショックから立ち直れない
- 子育てに自信がもてない
- ：
- 暮らしの中の様々なトラブルや悩み

そんな自分の気持ちを、一度話してみませんか  
気持ちをためこんで閉ざしていると、自分がどうしたいのが見えなくなってしまう  
どんな些細な事でもいいから、心の中にあるものをそのまま出してみたら、自分の姿が見えてくるかもしれない

力になりたいと思っています  
女性の相談員3名(心理・法律・労働)が女性の立場でじっくりお話をうかがいます  
相談は無料、秘密厳守です  
安心してお申込みください

### 女性のための特別相談

奇数月の第3木曜日実施中  
予約が要ります  
詳しくは市女性政策課へ

### 岡山の女性たちのあゆみ

～ときをこえて・私からあなたへ～



戦後50年、今だからこそ、ひたぶるに生き、走り、活動してきた女性たちの歴史を、あの日・あの時の私を鮮やかに浮かび上がらせながら、次代の女性へのメッセージを送ろうというテーマのもとに、企画に取り組みました。

とかく堅くなりがちなシンポジウムですが、林順子さん(ウイメンズ)の豊かな経験から醸し出されるユニークな話し方でコーディネートされ、パネリストの入江延子さん(女人随筆主宰) 二宮幸得さん(女性フォーラム) 徳永純子さん(女性学研究会) 高木樹世子さん(24歳) 4人は、70歳～20歳代の年齢層でそれぞれの立場で歩んできた経験から、女の生き方のメッセージを伝えました。会場からも、女の立場とは……家族の在り方、女が抱える介護の問題、行政の福祉に関してなどの提言がありました。残念ながら時間がたりず、十分な討議になりませんでした。もっと話したい、聞きたいという気持ちが今後の活動の後押しになっていくように思います。

女性関係年表資料は、歴史を踏まえての活動の参考になりました。

(貝原 己代子)

### 年をとっても楽しゅう生きにやあ

～本音で語る高齢社会～

講師 春日 キスヨ

高齢者問題である介護の見通しは、明るいものではありません。しかし、多くの方はそれほど真剣に受け止めていないのが、問題であるとも言えます。



今回は、介護する側、される側の4事例から問題提起をして、そこから、講師の春日先生に本音を引き出していただき、どこが問題なのか考えてみました。

近年、核家族化、女性の社会進出等で家族だけでは介護するのは無理になっています。夫が妻を、娘が親を介護するのは愛情からの場合が多いが、妻が夫を、嫁が親を介護

# '96 おかやま女性フェスティバル — 報告 —

「ともに築く21世紀～ひろげようネットワーク～」をテーマに「おかやま女性フェスティバル」が、1月21日、岡山シンフォニーホールを主会場に開催されました。

今回は基調講演に加えて、各分野で活躍しているグループ・団体が組織した実行委員が女性問題を様々な視点から取り上げた4つの分科会を企画し、自主的に運営・進行を行い、活動を大きく広げられたことは大収穫でした。

この実行委員の熱気が伝わって、会場はどこも満員の大盛況。立ち見客も出るほどでした。

三歳児の砂場遊びを見ていると、男の子は他の子が気になってキョロキョロしているが、女の子は、おしゃべりしながら仲良く一緒に山やお団子を作っている。

女性は、おしゃべりという情報収集手段により、行動パターンを予測し、活動していく。この特性を生かして、ゴーイングマイウェイで自分の仕事をひたすらやっていくことが、社会参画でありリーダーシップもとれてくる。

「男女が平等に社会に参画を」というには、女性たちが、女性たちの名で、女性たちで責任をもっておこなう姿勢と、荷物(リスク)を背負ってやっていく

#### 基調講演

### 「地球, 人間, 女と男」

登山家・医師 今井通子さん

決意が必要である。

登山は、両親が子どもの健康管理を目的に、海や山に連れていってくれたことから始まった。最高峰を目標に頑張ったのではなく、小さい山から中位の山へと続けていくうち、最高峰になってしまった。身に余ることを突然やるのはプレッシャーが大きい。階段を昇るように一つずつやると楽しめる。小さなことから、自分で責任持ってやれて、余裕をもって楽しめるところから始めていくと、知らないうちにいろいろな事ができるようになっていくと思う。

#### ◆参加者の声◆

- ◇今井さんが、女性として、逞しく、楽しく、自分らしく生きていることに感動した。
- ◇分科会の報告から女性の力強いパワーを感じた。
- ◇今回は、じっくり話し合ったり、話を聞いたりできた。これから、高齢化社会の中の女性の生き方を勉強していきたいと思えます。
- ◇夫婦でこうして参加でき、生涯教育の場が得られることは、戦後50年、平和と男女の在り方の変化を、改めて痛感した。
- ◇分科会はとてもよくわかるお話で、皆に伝えようと思えます。家に帰ったら子どもに対しての接し方が変わってくると思えます。子どもの個性を伸ばすよう頑張って育児をしたいと思えます。

するのは義務感からだということ、例を挙げて講演されました。老人が楽しく生きることのできる社会にするには、女性の意識変革と、男性も介護を担う意識変革が必要である等力説されました。子ども世代の負担を少なくして、介護は最低保障して貰える公的介護システムを、早急実現する必要があり、家族は精神面を支えるのがベストではないかと、総括されました。

会場からは質問も多くあり、予想を上回る参加者(220人)でアンケート(回収率69%)から、良かった、問題の深刻さに気づかされた等の反響に接し、高齢者問題の意識変革に、一石を投じることができたと思っております。

(藤田 澄子)



感動した。和と男女の在り方の変化を、改めて痛感した。子どもに対しての接し方が変わってくると思えます。子どもの個性を伸ばすよう頑張るべきだと思います。

### 女も男も自分探し

～「マディソン郡の橋」になぜ魅せられるの?～

講師 「わいふ」編集長 田中喜美子  
アドバイザー 弁護士 東 隆司

中年の男女の4日間の恋物語「マディソン郡の橋」を題材に、自分が望む生き方を探り、自分を創り、個人として家族・社会とどう向き合うか、をテーマに語り合った。

田中喜美子さん……現象面、風俗面では女性は変わったが、本質において変わってない。夫と妻が対等に向き合うためには、社会の構造に目を向け、行動しなければ変わらない。

東 隆司さん……男は仕事に充実感や喜びをもっている。仕事に逃げ場を求め、妻と向き合うのを避けている男たちも、今変わろうとしている。

#### 〈会場の声〉

★アメリカでは、情熱に負けないで自分の責任をつらぬいたフランチェスカが賞賛されたのかもしれないが、夫と妻との関係が近代化されていない日本で、この映画が流行ることの恐さを感じた。



★フランチェスカに自分を重ね、恋でもアクシデントでも飛ぶチャンスが与えられれば、日常から飛び出したかった。自分探しとは、自分壊しであり、自分づくりのために、自分の枠を壊すのだと思う。

★自分の枠だけでなく、社会構造の枠も考えなければ……。

〈終りに〉男と女、対等に生きるための基盤は労働である。女が家庭を支えることにより成り立っている現在の社会で、地位や収入に価値を置くのではなく、女も働く権利を要求し、女の自立によって、女も男も社会も変わっていく。

(平松 知子)

### 「女の子のくせに」なんて言わないで!

～家庭からの発信～

今、子どもたちへの虐待やいじめが、大きな問題としてクローズアップされています。そこで「子どもの人権」ということに視点を向けて問題を提起することにしました。

まず、家庭での子育てについて男女の育て分けの実態を把握するため、岡山市の大学生を対象に「親子関係」をチェックしてもらいました。結果は、女の子は優しく従順で女らしいこと、男の子は強く逞しく育つことを親は期待しており、性別による役割分担は家庭の中に根強く残っております。



こうした点をふまえて、安藤由紀さんを講師に迎え、C・A・P<Child Assault Prevention>について参加者全員で学習することにしました。子どもの権利ということ、(1)安心できること (2)自信がもてること (3)自由に行動できること の3点に定義づけ、自分がされたくないこと、自分がしたくないことは「イヤだ」とはっきり言うための知識と技術を、ロールプレイによって体験しました。

一人ひとりの人間が、自分らしくいきいきと生きていくためには、お互いが人間の生き方の多様性を認めあうことが大切であると確認することができ、有意義でした。

(須々木 近子)

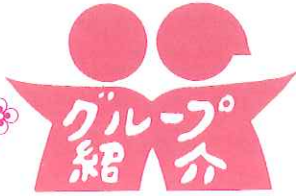
# エンパワーメント (empowerment)

直訳すれば「力をつけること」

第4回世界女性会議北京大会のキーワードの一つで、国際婦人年の目標である「平等・開発・平和」を実現する具体的な方策として出てきた考え方。

「能力の強化」とか「権限の強化」とも言われ、「社会的に弱い立場に置かれた人々に力をつけること」が、平等・開発・平和を実現する大道である——という考え方がはっきり打ち出された。

もはや法律や国の政策に頼っている場合ではなく、女性たちがいろいろな分野で行動して、連帯しながら家庭や政治・経済・社会を変革しなければ、実質的な女性の地位向上を手にすることはできない——そのためにすべての女性たちがともに行動する力をつけようという意味が込められている。



## 3B体操岡山第1ブロック

3B体操はボール、ベル、ベルターの3つの道具を用いる体操を基本に、各種のダンス、ストレッチ、ヨガ、エアロビクス、ゲームの要素を取り入れた健康体操です。

全国で30万人の愛好者があり、岡山市でも20年の歴史をもち、最近また注目されて、公民館の講座などで約1,000人の女性が親しんでいます。

岡山第1ブロックはその講師の集まりで、自己研修とともに、友達づくりの方法やあきずに運動を楽しむ方法を研究したり、ボランティア活動も心掛け、今年度の「おかやま女性フェスティバル」のオープニングにも参加しました。

私たちの活動で、岡山を「すこやかな女性の街」にしたいと思っています。

代表者 内藤 由子



はつらつ  
生き方自由自在

4月10日～16日は  
第48回婦人週間です。

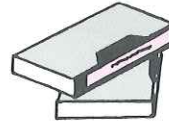
テーマ

21世紀に向けて

自分らしい生き方ができる社会を創ろう

まぜればごみ、分ければ資源

—ごみ5種分別収集にご協力を— 岡山市



## 新着ビデオのお知らせ

### ★「それでも生きた」

朝鮮人「従軍慰安婦」問題とは何なのか。

「慰安婦」政策が生み出された背景と実態、戦後補償問題・民族問題・女性問題を取り上げて制作。 (45分)

### ★「時代はいま <sup>ともだち</sup>両立」

女も男も、家庭と仕事を両立させることで、より豊かなパートナーシップが実現される。そんな思いを「<sup>ともだち</sup>両立」というフレーズに込めて、大阪府企画制作。 (24分)

## お知らせ

1975年の国際婦人年を契機に、女性差別の撤廃と地位向上を目指して、世界各国において、様々な取り組みがされており、昨年は「第4回世界女性会議」が北京市で開催され、今後の女性施策の国際的指針となる「行動綱領」と「北京宣言」が採択されました。

岡山市でも行動計画を策定して、女性問題に対する啓発を図るため「おかやま女性情報誌」を発行し、ここで第10号を迎えました。

男女が対等に、社会のあらゆる分野に参画し、ともに自立し、多様な価値観の共有を可能にする男女共同参画社会を実現するためには、あらゆる職場や意思決定の場への女性の参画が進められなければなりません。

そこで第11号から、女性にも男性にも幅広く、情報交換の場として親しんでいただくため、名称を「おかやま女性情報誌」から「男女共同参画社会の実現をめざす情報誌」と変更し、新しい第一歩を踏み出したいと考えております。

これからも皆様方とともに、よりよい情報誌づくりをめざしてさらに努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

発行／岡山市総務局生活文化部女性政策課  
岡山市大供一丁目1番1号  
電話(086)225-4211 内線3242  
表紙制作／板野淑子

本誌ご希望の方は女性政策課へ